

第11回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優秀賞

実践報告部門

ものやお金を大切に する心豊かな 子どもの育成を目指す授業づくり

～「農作物販売プロジェクト」の取組を通して～

福岡県・八女市立黒木西小学校 教諭 廣田 知良

知るぽると

www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2014

1. 実践にあたっての基本的立場

「ものやお金は大切」、本校児童の大半は、この認識をもっている。しかし、具体的になぜ大切なのか、どのように行動することが大切にしていることになるのか、そこまでを十分に認識している児童は小学校高学年でもそれほど多くない。

それは、ものやお金について考える経験の少なさや機会の少なさにあると考える。自分の手に入るお小遣い等のお金が、労働（家族の働き）の対価であることを知りつつも、実際には相当な苦勞を伴うことでしかお金は得られない実状を知る機会はほとんどない。

そこで、小学校第5学年で総合的な学習の時間における単元「農作物販売プロジェクト」を立案した。この学習は、自分たちで育てた農作物を販売するという直接体験をすることによって、「実感をともなったものやお金の大切さ」の認識が高まることを意図したものである。また、自ら課題をもち、よりよく解決していく能力や自己の生き方を考えるという総合的な学習の時間の目標を達成する上でも有意義であると考えた。

2. 授業実践の内容

本授業実践は、ものやお金に対する価値認識、計画性や判断力、労働観の育成を重視して17時間と課外2時間の計画で行った（資料1）。

（1）単元全体の課題をつかむ段階（1・2時／17）

単元の導入として、学校行事として取り組んだ稲作体験を取り上げ、活動の様子を撮影した写真や活動後の感想を書いた日記を提示した。子どもたちからは、田植え・草取り・稲刈りと取り組んできた過程で、がんばって働いたという発言があった。その中で、「そもそも人は、どうして働くのか？」と発問した。子どもたちは、「働かないとお金が入らないから生活できない」「おいしいお米を作ると人に喜んでもらえる」等と、働くことで生計を立てることと働くことの喜びの両面から働くことの意義を考えることができた。

そこで、働いてお金を得ることに着目させ、水田の管理者であるJA青年部の方よりお米の販売依頼があることを知らせ、「自分たちが育てたお米を販売してみないか？」と提案した。お米の販売については、例年、栽培した稲の一部を学校用としていただき、残りは農業フェスタで販売していることを知り、事前に子どもたちに販売させていただくことを協議していた。JA青年部からも「大変ありがたい申し出である」と快諾していただいていた。これまでに経験したことのない未知の学習だけに、子どもたちの関心と意欲は一気に高まった。

（2）単元全体の計画を見通す段階（3・4時／17）

〔学習課題〕 お米の販売を通して、働いてお金を得ることについて考えてみよう

上記の学習課題を設定後、学習全体の見通しや具体的な計画を立てさせていった。

まず、子どもたちが販売活動を行う農業フェスタの概要を説明し、自分たちの目指すお店について考えさせた。子どもたちから出された様々な意見を整理して、次のような見通しを立てた。

どんなお店にしたいか

○ お客さんがたくさん来てくれて商品がよく売れるお店

↓

（工夫点）お店の工夫… お店自体の工夫（かざりつけ・看板）

売り方の工夫（商品の種類・分量・並べ方・包装等）

グループ構成の段階にはいると、「なんだか会社みたい」等のつぶやきが聞かれた。そこで、学級全体で一つの会社をイメージして、開発部・営業Ⅰ部・営業Ⅱ部・経理部・広報部・教育部の6グループ（以下、各部）で構成した。そして、3年生の社会科で学習している商店の工夫や努力を想起させるとともに、身近にあるお店を調べさせて、より具体的な工夫点と販売までの活動計画を立てさせるようにした。

(3) 商品販売の工夫を調べ、計画を見直す段階 (5・6・7・8時/17)

この段階は、商品販売の計画をより明確なものにし、実際にお店で働く人々を高学年の目で見、工夫や努力をとらえなおすことを目的とした最初の課題解決活動である。

子どもたちは、各部の観点から商店や働く人々の工夫や努力を調べ、それをもとに自分たちのお店をより具体的にイメージし、計画を見直していった。全員で見学等には行かなかったが、その分多様な商店を見た意見が話し合われた。しかし、調査活動の実施の仕方は今後の検討が必要であるとする。

こうした活動の結果、各部の活動計画は、次のように見直された。

| 担当 | 活動内容 (各部の観点) | 具体的な活動や工夫点等 |
|-----|--|--|
| 開発 | ・商品の種類や価格、商品の置き方を考えたり準備・補充を行う。 | ○ 選べる・見やすい・清潔な感じを大切にしよう。 ◇ 価格表示板・テーブルクロス・分量の選べる商品 |
| 営業Ⅰ | ・お店のかざりや看板などのデザインを考え、お店の装飾を行う。 | ○ 活気があって、お客さんが目を向けるようなお店にしよう。 ◇ のれん・看板・試食コーナー |
| 営業Ⅱ | ・客寄せや売り子を担当し、商品を販売する。 | ○ 目立つ格好をしよう。 ◇ 店外販売の道具。12月なのでクリスマスの感じでいこう。 |
| 経理 | ・お店のレジやお金の管理をする。支払い場面でのお客さんへの適切な対応の仕方を考える。 | ○ 対応の仕方や代金計算、おつりの計算が大切になるよ。 ◇ 対応の練習が大事。電卓を準備し、おつりの早見表を作ったらどうかな? |
| 広報 | ・お店を出すことをたくさんの人に知らせる。 | ○ お店の情報を多くの人に知ってもらおう。来場した人に場所が分かることも大切。買ってくれた人に特典がほしい。 ◇ 新聞広告・会場入口でのチラシ配付 |
| 教育 | ・お客に対する商品の進め方や話の仕方を考える。 | ○ お店で働いている人は、だれも同じようなていねいな言葉づかいをしている。 ◇ 接客マニュアルを作って練習しよう。 |

(4) 計画をもとに出店準備をする段階 (9~15時/17)

この段階は、自分たちで見直した計画をもとに、各部で出店準備を進めていく2回目の課題解決活動である。出店準備に充てた7時間のうち5時間を各部毎の活動とし、2時間を商品の出荷作業とした。前段階で具体化した計画があるため、子どもたちは主体的に活動を進めていくことができた。

教師は、子どもたちの様子を観察しながら、各部の必要に応じて助言を行うとともに、1時間毎の学習の終末に連絡会を設け、各部からの報告や願いを共有する場を設定した。この連絡会を開いたことで、お米以外に学級園で育てている春菊やネギを販売したり、買ってもらった野菜でできる料理レシピ(資料2)をプレゼントしたりすることが決定された。このように出店までのスケジュールを調整し合い、よりよいお店にしていくための意識を継続しつつ計画的に活動を進めることができた。

また、新聞広告(資料3)を出すための手続きや農業フェスタへの参加確認などの手配を事前に進めておいた。

各部の準備が整い、出店予定日の2日前に学級園の野菜を収穫し、前日に出荷作業を行った。商品はお店で販売されるものと変わらないように、品質管理・計量・包装を行い、農業とは生産するだけでなく出荷作業が伴うことも体験させた(資料4)。

(5) 販売活動体験をする段階（課外 2 時間）

この段階では、全員及び各部で進めてきた準備を実行し、米・野菜・果物を販売する活動を行った。現場での出店準備が整う前にお客さんが来られ、対応に困った様子も見られたが、その後、店内はお客さんでにぎわい、予定していた 2 時間で商品は完売した。

子どもたちは、本単元の計画段階で設定した「お客さんがたくさん来てくれて商品がよく売れるお店」を意識し、各部毎で分担した仕事に一生懸命取り組んだ。

広報部の子どもたちは、会場入口で「西小のお店にいらしてください」と、チラシを配りながら宣伝活動に努め、営業Ⅰ部・経理部・教育部が店内での販売を行い、営業Ⅱ部が店外での販売を行った。開発部が店内と店外の様子を見て、商品の補充を担当した（資料 5）。

(6) 学習を振り返る段階（16・17時／17）

この段階は、これまでの学習活動をふり返り、学習課題である「働いてお金を得ることについて考えを深める」活動である。

まず、子どもたちに販売体験をもとにした学習の感想を書かせた。感想には、一生懸命販売活動に取り組み、米や野菜が売れた喜びや自分たちの工夫に対する反省などが綴られていた。共通していることは、どの子どもも大きな達成感を得ているということである。

そこで、最後の学習として収入金額を知らせた後、「収入は収益ではない」ことを教え、この活動にかかった経費を支出として差し引いた後、21 名で 2 時間働いた時給を計算させた。一人時給 50 円という結果に、子どもたちの驚愕の反応。何気なく飲んでいる缶ジュースさえ買えないことを知った子どもたちは、働いている家族に思いを向け、お金を得る大変さを実感することができた（資料 6）。

3. 授業実践の成果と課題

本単元、「農作物販売プロジェクト」の実践を試みて、次のような成果と課題が得られたと考えている。

第一に、この学習は、お金やものに対する認識や大切にしようとする態度を高める上で、非常に効果的であることだ。直接体験である販売活動を仕組むことにより、児童の意欲や意識は高い状態が維持され、その結果が実感をもたって自身の生活を見つめ直す原動力になったからである。実際に、この学習後、収益の使い道を相談すると、「よく考えさせて」という子どもの反応が多く、「お疲れ様会でもしてジュース飲もうか」という教師の提案には全員反対の意思であった。また、この学習を題材として自主的に作文を書いた児童も数名いる（資料 7）。

第二に、金銭教育に視点をあてた教材開発が、ちょっとした工夫で立案可能であることが教師自身実感できたことである。計画時数も 20 時間を下回り、単元としての規模も適切ではないかと考えている。この前例のない学習に取り組むに当たり教師として不安も大きかったが、子どもたちの成長を目の当たりにすると、私自身、取り組んで良かったと達成感を得ることができた。

課題としては、この学習を本校の教育指導計画に位置づける上で、他の学習との関連や学年の系統をふまえて見直し、学校としての金銭教育プランを創造していくことが必要であると考えている。

資料 1 第 5 学年総合的な学習の時間「農作物販売プロジェクト」指導計画

1. 単元 「農作物販売プロジェクト」

2. 目標

- 働くことに対して関心をもつとともに、農作物の販売について自ら課題を設定し、販売活動に意欲的に取り組むことができる。
- 商品を販売について課題解決の手順や方法を計画して、商品の販売方法や接客の仕方を工夫するとともに、その結果をもとに働くことの意義について考えることができる。
- 調査結果を分かりやすく表にしたりまとめたりして、自己の活動内容や考えを説明することができる。
- 農作物を販売する活動をもとに、お金やものの価値に対する見方や働くことに対する考え方を見直し、よりよい生活を築いていくことができる。


3. 指導計画（全 17 時間）

| 配時 | おもな学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|----|---|---|---|
| 1 | 1 稲作に関する学校行事の取組をふり返り、働くことの意義について考えるとともに、お米の販売に関心を持たせる。 | ○ 農業をはじめとする様々な仕事で働く理由を考えさせ、働く意義について生計を立てる・働く喜びの両面があることに気づかせる。 ○ J A 青年部よりお米の販売依頼があることを知らせる。 | ※ 活動の様子を写真で提示できるようにする。 ※ 道徳の時間との関連を図る。 |
| 1 | 2 お米の販売活動を通して学ぶ、学習課題を設定する。 | ○ お米を販売すること自体が目的とならないように、働くことを通して、働くことの意味や大変さを知ることが出来ることを助言する。 | |
| 2 | 3 販売活動に向けた学習計画を立てる。 ① どんなお店にしたいか目標像を具体化し、お店の目標像に合わせて、課題別グループを構成する。 | ○ (例) お客さんがたくさん来るお店・ものがよく売れるお店のようにその後の活動に結びつくようにする。 ○ 児童の発言をもとに、課題別グループを構成する。 ※ 本単元では、企業を意識して 6 グループの構成と命名を行った。 | |
| | ② 販売活動までに課題別グループ毎で取り組む内容や手順について見直しをもつ。 | ○ 3 年生社会科学習時の経験等も生かし、店の商品販売のために店が工夫していることについて、調べる・発表する・話し合う活動のある計画を立てる。 | |
| 3 | 4 課題別グループで商品販売の工夫について調べ、分かったことを発表し合う。 | ○ 何のためにどんな工夫がなされているかを考えさせ、一つの店が多面的に工夫されていることに気づくようにする。また、働いている人々がそれぞれの立場で努力していることを意識させる。 | |

| 配時 | おもな学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|----|---|--|---|
| 1 | 5 みんなで調べたことをもとに、農作物を販売する際に出店するお店について計画を見直し、全員で話し合い、出店プランを共有化する。 | ○ 課題別グループ毎に担当部署の活動内容を見直す。 | |
| 5 | 6 出店プランをもとに、出店準備を進める。 ① お米の包装袋に絵を描く。 | | ※ 包装袋は、J A 青年部より持参。3～5年生で実施。 |
| | ② 課題別グループ毎に必要な準備を進める。 | ○ 開発部 : 商品配置図・値札 営業Ⅰ部 : 看板・のれんづくり 営業Ⅱ部 : 路上販売の準備 経理部 : レジの練習 広報部 : 新聞広告・当日用チラシ・レシピ集 教育部 : 接客マニュアル | ※ 新聞広告。西日本新聞販売店黒木西小校区 + 黒木小校区へ1,000枚の折り込み広告を配達。 |
| 2 | 7 商品の準備を行う。 | ○ 学級園栽培の春菊・小ネギ、担任提供のシイタケ・みかんを秤量して包装。 この作業は、通常農家の仕事内容であることを説明し、店頭で販売される商品に人件費が上乗せされている仕組みを知らせる。 | |
| | 8 販売活動体験（課外） | ○ 12月14日（土）の農業フェスタにて出店 | |
| 1 | 9 販売活動の感想を書く。 | ○ 販売体験に関わったの感想を書くようにする。 ※ 全部売れて良かった等の達成感を引き出す。 | |
| 1 | 10 学習をふり返り、働くことの意義や大変さ、お金の価値について考える。 | ○ 子どもたちと一緒に収益計算を行うことで、お金を得ることの大変さを実感させるとともに、販売活動の感想を紹介し、働くことはお金を得ることであり、かつ社会に役立ち、自分を高めていることに気づかせるようにする。 | |

資料 2 広報部制作のプレゼント用料理レシピ原本

春菊のふわとろ焼き



材料 (直径15cm4枚)

春菊・・・2束
 白玉粉・・・大さじ3
 小麦粉・・・大さじ3
 卵・・・1個
 顆粒だし・・・小さじ4分の1
 白味噌・・・小さじ4分の1
 プロセスチーズ・・・1枚
 ごま油・・・大さじ1

- 1 白玉粉、小麦粉、顆粒だしをボウルに入れ、泡立て器でよくかき混ぜます。
- 2 水100mlを加え、だまにならないようによく混ぜます。白味噌を全体に溶くように混ぜます。
- 3 卵を加え、さらによく混ぜたらカットした春菊を全体に混ぜます。
- 4 ごま油をフライパンに引き、おたまで生地をすくって焼きます。足温で、じっくり焦げ目が付くまで焼きます。
- 5 チーズをのせて 静かにひっくり返します。

コツ・ポイント
 生地がしても柔らかいので、し、かり焦げ目を付けてから、さ、つてかえして焼きます。

ごぼうと舞茸の炊き込みごはん



材料 (2合分)

お米 2合
 ごぼう 1本
 舞茸 1パック
 練り物 適量

炊飯器に入れる用
 ごま油 小さじ1
 醤油 小さじ1
 酒 小さじ1

炊飯器に入れる用
 顆粒だし 小さじ1
 醤油 大さじ1.5
 みりん 大さじ1.5

- 1 ご飯は洗米して、1時間水に浸した後、ザルに上げておく。
- 2 (下ごしらえ) ごぼうはささがきにして軽く水に浸す。
- 3 舞茸は適当に手で割く。
- 4 練り物は小さめに切る。
- 5 フライパンにごま油小さじ1を引いて、ごぼうと舞茸を炒める。しんなりとしてきたら酒と醤油を小さじ1ずつ入れて下味をつける。
- 6 炊飯器にお米、顆粒だし、小さじ1、みりん大さじ1.5、醤油大さじ1.5を入れて、目もりまで水を入れる。
- 7 そこへ、先ほど炒めたごぼう、舞茸と練り物も加えて、あとは炊飯器で炊くだけ。

ぜひ作、てみてください

資料 3 広報部制作の新聞用折り込み広告 (表面)

西っ子が作った(米)を販売します



黒木西小の子ども達が作ったお米や、春菊などを農業フェスタで販売します。2kg入りのお米も80ふくらよういしています。試食コーナーもあります。ぜひ、おこしください。

ご来店、心よりお待ちしております。
 黒木西小学校5年生一同

【とき】
 平成25年12月14日 土曜日 14:00~15:30

【ところ】
 Aコープ黒木店 ※ 農業フェスタ会場



(裏面)

米 (2kg入り) 1袋・・・¥800



2袋お買い上げの場合¥1500!!

♪ふるくおのふるく黒木地区青年団様のご指導・ご協力のもと、学校行事において3・4・5年生が田植え・草取り・稲刈りの体験活動を通して育てた商品です。この他にも学校園で栽培した野菜など各種の農作物を販売いたします。

資料 4 出荷作業の様子



小ネギの選別を行う児童



シイタケの包装作業を行う児童

資料 5 販売活動の様子



商品のよさを説明しながらお客を呼び込む営業Ⅰ部の担当児童



レジで接客する経理部担当の児童



店外販売に取り組む営業Ⅱ部担当の児童

資料 6 児童の感想

(1) 販売活動を体験した日に書いた児童の感想

初めての販売
 「おいしいお米、いりませんから。」
 とはずかしかった。声が出た。先週の土曜
 日に農業フェスタで、売り子をして、お米、
 野菜を売ることになつて、いた。ぼくたちが
 時間をかけて作った、箱を持って販売した。
 最初は、みんなから見られているので、はず
 かし、声があまり出せなかった。しかし、
 「ネーブル一つください。」
 と中学生の人にネーブルを売った。初めて
 物を買ってくれた。と飛び上がる程、うれし
 かった。それから、どんどんはずかしくな
 くなり、声が最初の二倍以上は声が出ていた
 それにともない、
 「お米ください。」
 「香菊としいたけください。」
 と、次々と野菜やお米を売った。かんたんと
 いったよ、
 「ありがとうございます。」
 と、お客に楽しく言うことが出来た。それが

気付いたことが一つあった。ほとんど買って
 くれたのは、やさしいおばあさんだ。た。
 商品が売り切れに近づくと、めい、はい、
 声をはり上げた。
 「ぼくたちが作った、おいしいお米はいかが
 ですか、残りわずかです。」
 声をはり上げているのは、ぼくたちだけでは
 なかった。うるさいような声がテントの中を
 通りぼくの耳に入ってきた。ぼくたちが売ったお
 米、お野菜は全部売り切れた。ぼくは、とて
 もすがすがしい気持ちでいっぱいだった。た。
 12/

(2) 学習のふり返しを行った時に書いた児童の感想

・あの時間がんばっても1人時給50円しか、かせ
 げないことが分かって、今働いている人達はと
 もがんばっている人だなと思った。
 とてももうけたと思っていたけど、あんまりもうけてない
 ことが分かった。
 ほとんどお金を使う時、お金のありがたみを分か
 ってお金を使いたい

がんばって働いた結果が、10,100円で、
 1人時給50円だったので、働いて大変な
 んだなあとあらためて、思いました。支出が
 多くて、収入が減ったんだけど、しじふ
 くらや、試食コーナーで作ったおにぎりが
 あったから、お米など売れたんだと思います。
 試食コーナーではみんな、おいしいと
 言ってくださったので、とてもうれしかったです。
 す。はた

資料 7 児童が自主的に書いた作文

お金を得るまで

黒木西小学校 五年

私は、おそらく小学校生活で一度であろう体験をした。それは、お米の販売だ。そのお米は、JA 青年部の方々に協力してもらい、学校の三、四、五年生で田植え、草取り、稲かりをして収穫したお米だ。私達はお米をつくった最上級生だったので、三、四、五年生を代表して五年生が販売することになったのだ。

準備にかかった時間は約五時間、そして昼休み。お米の他にも、学級園で育てた春菊とネギなども売ることになった。五年生のみならず、初めての販売ということもあり、積極的に準備に取り組んだ。お客さんに話す言葉も自分達で考え、ハキハキとしゃべる練習をした。

いよいよ販売当日。場所は農業フェスタというお祭りの会場で、とてもにぎわっていた。私がついた役割はレジ係。お金をあつかう重

要なところだ。五年生みんなで気合い入れをした後、レジの場所についた。すると十秒もたたないうちにお客さんがレジにやってきました。「早っ。」

あまりもの早さで緊張した私の頭はぐちゃぐちゃになった。何を言えばいいか、何をすればいいか、あんなに準備や練習をしたはずなのに、何もかも分からなくなりました。するとレジ係でベアの鈴菜さんがお客さんに向かって、

「いらっしゃいませ。お買い上げありがとうございます。ございませ。お米が一つくろと……」

と、順調に接客してくれた。私はその言葉を聞き、落ち着きをとりのどすことができました。一時はどうなることかと心配したが、その後十分程はテントの中はお客さんでいっぱいになり、息をつくひまもなかった。

私達がお米などを販売していたのは、大声大会やダンスショーなどがあるステージ近くだった。そのため、売れやすいかなと思っ

のは、ちよつと外れていた。ステージ上でダンスが始まると、お客さんはダンスに気をとられ、その時は売れなかつたからだ。私はそれならと思ひ、ステージとは逆の方に売りに行った。これは大正解だった。通りかかった人に積極的に声をかけ、大量に売れた。

閉店の時間。六個程の商品が売れ残った。私は、「がんばったのに……もうあきらめるしかないのか……」と声に出したくなつた。その時、JA青年部の方来られ、協力してくださつたのだ。

「何が残つた？これねー。じゃあ全部買ってやろう？」

あまりにも大胆な言葉に私はびくりました。もうあきらめかけていた私は、その言葉で一瞬にして笑顔になつた。みんなも、最高の笑顔をおかべていた。

おかげ様で全部売れた。みんなでハイタッチしたり、中にはカツポーズをしたりしている人もいた。

私はこの体験をして、物を販売する大変さや、お金を得るには、多くの時間と努力が必要だと分かつた。これから、仕事をしている親に感謝しながら、物を買うときは本当に必要かどうかを確かめ、お金を大切にしていきたい。